

鹿児島県柔道会だより

■発行人：北 哲郎 ■編集：総務部編集委員会 ■発行：公益財団法人鹿児島県柔道会(099-222-7770)

秋季国体九州ブロック大会結果

8月21日(日)、成年男子を除く成年女子、少年男子、少年女子の3種別における国体九州ブロック大会が、宮崎県 KIRISHIMA ツワブキ武道館で開催されました。

結果は、成年女子は予選を2位で通過するも決勝トーナメントで長崎に1-0で惜しくも敗れ、本戦出場はなりませんでした。また、少年男子、少年女子ともに、予選リーグ突破ならず、ブロック突破はかないませんでした。

いわて国体柔道競技は、10月8日(土)から10日(月)まで、久慈市民体育館で開催されます。出場する成年男子には、実力を十分に発揮して上位入賞を期待します。

いわて国体 県代表選手

【成年男子】

- 監督 中村 勇 (鹿屋体育大)
- 大将 堂前 賢吾 (鹿児島県警)
- 副将 内 健治郎 (鹿児島県警)
- 中堅 盛田 勝義 (鹿屋体育大)
- 次鋒 堅山 将 (パーク24)
- 先鋒 田中 光 (鹿児島県警)

第70回県民体育大会柔道競技 鹿児島地区 3連覇

台風接近で開催も危ぶまれましたが、9月18日(日)霧島市国分武道館で12地区を代表する精鋭約100名が集まり、予定通り開催されました。時折、「がんばれ！お父さん」と、兄弟で声援を送る子供の声会場に響くなか、熱戦が繰り広げられました。

試合の結果は、決勝で、始良地区を3-0で破ったか鹿児島地区が、見事3連覇を飾りました。

◇予選リンク

始良5-0熊毛, 始良3-2出水, 伊佐2-1出水, 伊佐3-2川薩, 川薩4-0枕崎, 鹿児島5-0枕崎, 鹿児島4-0大島, 大島3-2曾於, 肝属2-2(代表)曾於, 肝属3-0南さつま, 南さつま3-2日置, 熊毛3-2日置

◇決勝トーナメント一回戦

鹿児島5-0伊佐, 始良4-0肝属

◇決勝 鹿児島3-0始良

▽順位 ①鹿児島 ②始良 ③伊佐, 肝属

指導者講習会 (優秀指導者招へい)

上記講習会が、9月22日(祝・木)に県総合体育センター武道館で開催されました。

これは、2020年第75回国民体育大会の開催に向けて、県外から優秀な指導者を招へいして、選手強化を図る目的で、県内柔道指導者・強化委員・一般約60名、高校生・中学生約120名を対象に実施しました。今回は、全柔連強化副委員長で、了徳寺大学柔道部監督の山田利彦先生に指導していただきました。

始めに北会長から「2020年本県で開催される国体の成功を期すべく、柔道会一丸となって、また、選手・指導者も一体となって頑張ってもらいたい。」とあいさつがあり、講師の紹介の後、「競技力向上に向けた競技者・指導者の在り方」と題して、山田先生の講話がありました。

午前中は、前半に「柔道の意味」、「柔道の目的」、「嘉納治五郎遺訓」などのについての講話があり、「柔道を通して、体と心を作っていくって、これからまだまだ、中高生も社会に出ていく上で自分自身というものをしっかり確立して、そして、最終的に世のためになる人材になってもらいたい、ということが



私が言っているのではなく、嘉納治五郎先生がずっと言い続けてきたことなので、そこをしっかりと頭に入れてこれからも修行に臨んでほしいと思います。」と話されました。

後半は、山田先生が経験したことをふまえて、「国際交流」、「海外普及の中で日本柔道が如何に恵まれているか」、「国際化」、「指導法」などについての講話がありました。

午後は、組み手争いを中心に実技指導がありました。

組み手では、「自分が優位な姿勢を作るために、いろいろな相手に対応できる自分なりのいくつかのパターンを持つことが必要であり、試合の途中でもスイッチできるようになると、精神的な面でも優位に立てて、流れを変えられる」と指導されました。



指導の中では、始めにけんか四つで、釣り手がとれた場合、フェイントを入れながら釣り手をうまく捌いて、引き手をとるいくつかの方法が説明されました。次に相四つの場合はいろいろなパターンの中で、左構えから先に引き手を取り、手首をうまく使い相手を制しながら釣り手や背部をとるパターンの練習がありました。また、自分が背部をとられたときの切り方などの指導もありました。

また、「上手な人の技を見て、ただ上手だと思っただけではなく、どうしてそのようにかかるのだろうかと考えたり、自分もまねをしてみよう、アレンジしてみようなどと考えながら練習すると、柔道がおもしろくなる」という話もされました。

受講生たちは、2人組になって、山田先生に「さりげなく抜く」などの細かいアドバイスを受けながら熱心に練習に取り組みました。

道場めぐり 39

「太陽スポーツクラブ柔道塾」について
代表指導者 八反田 太

太陽スポーツクラブは1985年創業時より「太陽のように明るく、強く、豊かな感性とからだを育む」をスローガンに掲げ、体育、スポーツを通じて幼少年期の子ども達の健全育成に全社一丸となり取り組んできました。

2013年9月の新社屋完成に伴い、柔道の普及と子ども達の健全育成を目的とし、本社3階に民間道場としては県内屈指の広さを誇る120畳の柔道場を新設し、今年12月で3年目を迎える現在では、真新しい畳の上で幼児から中学生までの男女会員が週1回から2回の練習に励んでおります。

柔道は競い合うスポーツではありますが、当道場では高度な技術や勝ち負けだけに捕らわれる勝利主義の指導には重点を置いておりません。まず柔道を好きになってもらうことを重視し、礼儀作法、基礎体力の向上、基本を重んじ、人(相手)を敬う心を養うことに重点を置いております。技術や結果は、その延長線上にあり、日々の精進で自ずと身に付いてくるものであるという考え方を大切にしております。

また、当道場独自の昇級制度を設け、子ども達の頑張りを客観的且つ正当に評価する為に帯の色を7色(7階級)に分け、子ども達が個人のレベルに合わせて目標を持って稽古に励めるよう工夫しております。年度末には、常日頃から同じ畳の上で稽古を励んでいる全会員と保護者が一堂に会し、子ども達の1年間の成長、頑張りを観戦するための学年別交流戦も実施しております。

最後に、柔道の一番の魅力は、豊かな人間性を育むことと考えています。柔道を学ぶ子ども達に、夢と希望を与え、将来的には社会に貢献できる人材として成長できるよう育成し、子ども達が誇らしい気分で太陽スポーツクラブ柔道塾に通えるよう誠心誠意努力して



まいりたいと思っています。みんなで『柔道を楽しむ』団体です。ぜひ道場見学に来て下さい。きっと柔道が好きになると思います。

九州ブロック小学生選抜合宿

上記合宿が、8月16日(火)～18日(木)に佐賀県嬉野市の嬉野市体育館で開催されました。本県からは引率3名、選手23名が参加し、全柔連派遣講師による技術指導などを受講しました。



各種大会の成績等(6月～9月)

高校総体柔道MINDスピーチ

5月25日(日)・26日(木)

鹿児島アリーナメインアリーナ

鹿屋体育大学体育学部講師 中村 勇

今から30数年前、私もみなさんと同じようにこの試合場に立っていました。

鶴丸高校に入学した1年目は、目標1回戦突破! とにかく新入生が入ってやっと5人でチームが組めるということで先輩達が喜んでいたので覚えています。

結果は団体1回戦突破したものの二回戦負け、そして個人は一回戦負け、上級生の相手に何もできず終わった記憶があります。

その2年後は鹿児島で開催されるインターハイの出場権をかけて、私も中量級の第2シードとしてこの場に立ちました。しかし結果は個人3位、インターハイの夢は破れて、進学校生徒は引退、受験勉強のはずですが、悔しくて悔しくて。そして国体を狙うことになりました。その後、国体代表となり10月の本大会に出場することができました。

それから5年後、私はアメリカで留学中で、柔道の選手とコーチを兼任していました。一応、全米学生選手権では個人戦で2回優勝することができました。

30歳の誕生日に帰国し、筑波大学大学院に進学しましたが、ちょうどその時大学の恩師が国際柔道連盟の役職についたので、その通訳兼アシスタントとして国際舞台で仕事をする経験を積みました。アメリカ留学経験から英語が話せるということで声がかかったのです。カラー柔道衣、最近の脚取り技禁止のルール作りなどに関わることができました。

また、全日本強化選手をサポートする科学研究部の一員として、仕事をする経験ができました。例えば今全柔連が使っている審判ビデオは私が準備したシステムが元になっています。アテネ五輪では、ライバル対策のため、現地で谷亮子や野村忠宏選手らに対戦相手のビデオを渡しました。アテネでの金8個のうち、リボンの糸1本くらいは私のおかげだと思っています。

昔、この大会で1回戦負けだった高校生が、その後海外留学し、国際舞台を経験し、日本柔道をサポートすることができました。今は鹿屋体育大学の教員として、日本を代表する選手の育成や将来オリンピック選手を育てる指導者を育てる仕事をしています。

柔道だけやって生きていける選手はほとんどいません。柔道が強くなくても他の方法で柔道に関わることができます。柔道バカになっていいですが、柔道だけのバカにならないように勉強もしっかりやってください。

皆さん、今日と明日の試合は悔いの残らないように全力でがんばってください。

県下中学校柔道大会

6月4日(土) 鹿児島アリーナ

◇男子団体

- 1位 吉野中学校
- 2位 中種子中学校
- 3位 財部中学校
- 3位 末吉中学校

◇男子個人

- 1位 橋口佳尚(吉野中学校)
- 2位 山元隆一(川内北中学校)

◇女子団体

- 1位 吉野中学校
- 2位 末吉中学校
- 3位 谷山中学校
- 3位 中種子中学校

◇女子個人

- 1位 宮田礼菜(末吉中学校)
- 2位 三崎茉莉(吉野中学校)

県下柔道中学校柔道大会

柔道MINDスピーチ

6月4日(土)鹿児島アリーナ武道場

鹿児島工業高校1年 森 幸輔

柔道の出会いと私の生い立ちについて話させていただきます。

柔道を始めたきっかけは、父の影響です。父のすすめで、小学1年から柔道を始めました。最初はいやいやながらで「柔道なんて何が楽しいのだろう」と思っていたのですが、やっていくうちにだんだん強くなっていき、柔道が楽しくなっていました。

私の身近には、あこがれの先輩方がたくさんいます。兄や姉もその1人です。現在、所属している鹿児島工業高校柔道部には、小学校時代からあこがれている先輩がいます。きゃしゃな体格だったのに、人一倍の努力をしている姿を見てきました。今では県内でもトップクラスの実力者です。他にも3年連続でインターハイに出場している鹿児島実業高校の先輩もいます。小学・中学とお世話になり、目標にしてきた先輩です。こうした方々との出会いが、柔道を続けてきたきっかけでもあります。

さて、中学時代の思い出は、県選抜選手として、九州ブロック合宿に参加したことです。そこは、九州各県の実力者たちがそろって練習する場です。この合宿に参加して、これまでにない刺激を受けました。その強者たちともう一度九州・全国の舞台で戦ってみたいという強い気持ちにかられました。しかし、去年の夏、最後の県総体では思うような結果を出せませんでした。3年生の集大成である夏の県総体で、結果を出せなかったのは本当に悔しかったのを覚えています。それと同時に、今まで私を支えていただいた周りの方々に恩返しができなかったことへの申し訳なさがこみ上げてきました。このときの悔しさは、一年近くたった今でも忘れていません。そして、高校生となった今、あの日の悔しさは自分自身を鍛える良い糧となっていて、日々の練習にも一生懸命取り組んでいます。今年の自分の目標は、インターハイに出場して、ベスト8に入ることです。この目標は、中途半端な覚悟では達成できないので、日々精進していきます。柔道を通しての様々な出会いを大切に、支えていただく方々への感謝の気持ちも忘れずに、柔道を学び、柔道で学ぶ姿勢を持ち続けたいと思います。

最後に、今現在やっている柔道は、社会に出ても役立つことを信じて、皆さんも頑張ってください。

県ジュニア体重別選手権大会

6月12日(土)(鹿児島アリーナ)

【男子】

- ◇55kg級
 - 1位 倉山 将也 (明桜館高校)
 - 2位 前山 昌哉 (明桜館高校)
- ◇60kg級
 - 1位 森田 将矢 (鹿屋体大学)
 - 2位 加藤 輝 (明桜館高校)
- ◇66kg級
 - 1位 清家 裕馬 (鹿屋体大学)
 - 2位 岩越 優太 (鹿児島刑務所)
- ◇73kg級
 - 1位 田中 秀伍 (鹿児島情報高校)
 - 2位 矢野 徳大 (鹿屋体大学)
- ◇81kg級
 - 1位 山田 史人 (鹿屋体大学)
 - 2位 竹下 将樹 (鹿屋体大学)
- ◇90kg級
 - 1位 金本 拓巳 (鹿屋体大学)
 - 2位 吉田 翼 (鹿屋体大学)
- ◇100kg級
 - 1位 吉野 敦哉 (鹿屋体大学)
 - 2位 大石 智也 (鹿屋体大学)
- ◇100kg超級
 - 1位 平崎 省吾 (鹿屋体大学)
 - 2位 上林山勇斗 (明桜館高校)

【女子】

- ◇44kg級
 - 1位 西 李香 (鹿児島情報高校)
 - 2位 田原芽流茂 (れいめい高校)
- ◇48kg級
 - 1位 中馬 梨歩 (吉野中学校)
 - 2位 小川 真未 (鹿児島南高校)
- ◇52kg級
 - 1位 阪部りり子 (鹿屋体大学)
 - 2位 瀧川 琳花 (鹿児島情報高校)
- ◇57kg級
 - 1位 谷山 捺美 (鹿屋体大学)
 - 2位 上島 千明 (鹿屋体大学)
- ◇63kg級
 - 1位 飯野 鈴々 (鹿屋体大学)
 - 2位 邊木園瑞稀 (鹿児島南高校)
- ◇70kg級
 - 1位 牧田 朱加 (鹿屋体大学)
 - 2位 野間 陽 (鹿児島情報高校)
- ◇78kg級
 - 1位 江口高千穂 (鹿屋体大学)
 - 2位 豊永 華純 (国分中央高校)
- ◇78kg超級
 - 1位 栗原 佑佳 (鹿屋体大学)
 - 2位 古市 真愛 (鹿児島情報高校)

県ジュニア体重別選手権大会**柔道MINDスピーチ**

6月12日(日) 鹿児島アリーナ武道場
吉野中学校3年 中馬梨歩

「柔道を通して学んだこと」

私が柔道着に始めて袖を通し、白帯を締めたのが、5歳の頃でした。きっかけは、当時、柔道の練習に励んでいる、従兄弟の姿を目にしたことでした。いさぎよく相手に技をかける光景を目にした瞬間、柔道への憧れが自分の中にわき起こりました。「柔道をしたい。」ただその一心でした。

しかし、その時はまだ、自分の思いすらはっきりと人に伝わらないような幼い頃の私の目に飛び込んだ世界が、これからの自分の人生にこれほどまでに大きな影響を与えてくれるものになるとは、その時は想像もつかないことでした。

きっかけは、憧れからでしたが、柔道の世界に飛び込んで、今年で10年を迎えようとしています。10年という長い時間続けることができたのは、何よりも「柔道が好きだったから」というこの一言につきまします。そんな好きな柔道の世界が、私に教えてくれたものは、「柔道MINDプロジェクト」の精神にもあるように、「礼節」です。恥ずかしがり屋で人見知りだった私は、人前で挨拶をすることすら苦手に感じていました。しかし、柔道を始めてから、礼儀の大切さを知り、今では、先生方や友だち、逢う人達に進んで挨拶をすることを実践しています。

また、感謝の気持ちを持つことも礼節と同様、柔道から学んだことです。中学校生活最後のこの時期を迎え、私が今一番に感謝の気持ちを伝えたいのが両親です。練習に通うために、毎日送り迎えをしてくれたり、休みの日も私のことを優先して動いてくれたりしてくれます。いっぱい愛情で大好きな柔道を思い切り存分にできる環境をいつも作ってくれる両親の支えがあるからこそ、今の私があります。

そして、大切な仲間が存在です。柔道は相手がいるからこそ成り立つスポーツです。一人では何もできません。今まで一緒に柔道と向き合ってきた仲間との絆は、私の精神をいっそう強くしてくれます。仲間に、柔道を教えてくださった先生方に、支えてくださった方々に、そして、両親への感謝の気持ちを忘れずに、これからもまい進していきます。

人として、日常生活で大事にしなければならないことを、柔道を通して教えられた事は、私の財産です。これからも、柔道を通してた

くさんの事を学んでいきます。私の今年の目標は全国大会優勝です。全国の頂点に立つために、日々の練習に打ち込んでいきます。

☆女子団体優勝(見事3連覇!!)

中尾小都枝(県柔道会)

古川しげみ(出水中央高教)

北田裕美子(ワイエスフード:福岡)

2016年日本ベテランズ国際柔道大会(第13回日本マスターズ柔道大会)は、講道館において6月18日(土)19日(日)の2日間の日程で開催され、鹿児島県チームが見事優勝し、3連覇を飾りました。

第11回県小学生学年別柔道大会

6月25日(土) 鹿児島アリーナ

【男子の部】

◇6年男子50kg級

1位 宮永 凌駕(忠氣道場)

2位 宮崎心之介(修道館)

◇6年男子50kg超級

1位 山神 純汰(青雲)

2位 池田 孝輔(末吉)

◇5年男子45kg級

1位 作本 迅(坊津学園)

2位 久木野隼矢(忠氣道場)

◇5年男子45kg超級

1位 柏木 恋(出水)

2位 天達 朝日(枕崎)

◇4年男子40kg級

1位 五反田翔平(かわなべ)

2位 中屋 賢心(忠氣道場)

◇4年男子50kg超級

1位 榊原 天蘭(忠氣道場)

2位 橋元 隆希(出水)

【女子の部】

◇6年女子45kg級

1位 高目 汐莉(光武館)

2位 岡元 優樹(柔心館道場)

◇6年女子45kg超級

1位 平野 智愛(青雲)

2位 小原 寿李(西之表黒潮)

◇5年女子40kg級

1位 東郷 紅葉(修道館)

2位 大野 莉沙(始良)

◇5年女子40kg超級

1位 平 愛菜美(南種子)

2位 川地 智(青雲)

◇4年女子35kg級

1位 峯崎 叶愛(末吉)

2位 宮久保瑠碧(光武館)

◇4年女子35kg超級

- 1位 濱田優里愛(末吉)
- 2位 福山 琴子(光武館)

※ 5・6年生男女各階級1位が8月28日(日)三重県営サンアリーナで開催される第13回全国小学生学年別柔道大会へ出場します。

**県小学生学年別柔道大会
柔道MINDスピーチ**

6月25日(土)鹿児島アリーナ武道場
鹿児島県柔道会副会長(青雲クラブ柔道スポーツ少年団監督) 田邊 侑

自分の子供を強くならせたい思いが、子供の大きな負担となってはいないでしょうか。

柔道の強い小学生が中学、高校と活躍することもありますし、「小学生の時はあんなに強かったのに」ということも稀ではありません。

小学生は、これから体も心も成長していきます。また、柔道のルールも中学、高校と変わっていきます。

競技によっては「年少から鍛えないと遅きに失する」という競技もありますが、柔道はそうではないと思います。

高校から柔道をはじめて世界チャンピオンになった選手もいますし、小学生、中学生の時には柔道の練習に熱心ではなかったが、その後とてもよい成績を収めた選手もいます。焦らずに長い目で見て欲しいと思います。

私は、強い選手ではありませんでしたが、柔道を頑張ってきたことでこれまでの人生を自信をもって歩んでこれましたし、幾多の困難を乗り越えることができました。古希を迎えた今、私を作ってくれた柔道への恩返しをと考え、少年柔道の指導を続けています。

ここにいる子供たちが、柔道の経験を基に、素晴らしい未来を切り開いていってくれることを祈念して終わりにいたします。

県中学校総体

7月25日～26日 鹿児島アリーナ

【男子団体戦】

- 1位 吉野中学校
- 2位 中種子中学校
- 3位 末吉中学校
- 4位 財部 中学校

【男子個人戦】

◇50kg級

- 1位 立石 倫大(南種子中学校)
- 2位 吉元 悠真(隼人中学校)

◇55kg級

- 1位 中村 康誠(中種子中学校)
- 2位 有川 叡至(重富中学校)

◇60kg級

- 1位 南 龍太郎(西紫原中学校)
- 2位 岩坪 翔輝(隼人中学校)

◇66kg級

- 1位 塩屋翔二郎(吉野中学校)
- 2位 長谷川直哉(帖佐中学校)

◇73kg級

- 1位 濱田 聖良(隼人中学校)
- 2位 川村 虎白(米ノ津中学校)

◇81kg級

- 1位 竹山 真平(長島中学校)
- 2位 濱田耕太郎(末吉中学校)

◇90kg級

- 1位 橋口 佳尚(吉野中学校)
- 2位 蘭川 祐誠(米ノ津中学校)

◇90kg超級

- 1位 岩坪 龍輝(隼人中学校)
- 2位 山元 隆一(川内北中学校)

【女子団体戦】

- 1位 吉野中学校
- 2位 末吉中学校
- 3位 重富中学校
- 4位 東市来中学校

【女子個人戦】

◇40kg級

- 1位 城戸 鼓夢(谷山中学校)
- 2位 垣内 望歌(谷山中学校)

◇44kg級

- 1位 中馬 優衣(吉野中学校)
- 2位 鳥越 璃子(川辺中学校)

◇48kg級

- 1位 中馬 梨歩(吉野中学校)
- 2位 竹之内双葉(加世田中学校)

◇52kg級

- 1位 藤川 可蓮(中種子中学校)
- 2位 宮原 友紀(重富中学校)

◇57kg級

- 1位 三崎 茉莉(吉野中学校)
- 2位 上野 祥歩(阿久根中学校)

◇63kg級

- 1位 天川きらり(末吉中学校)
- 2位 宮原 里穂(重富中学校)

◇70kg級

- 1位 宮田 礼菜(末吉中学校)
- 2位 清水 風音(坊津学園中学校)

◇70kg超級

- 1位 芝原 和花(川辺中学校)
- 2位 田中しのぶ(金久中学校)

県中学校総体**MIND講話 「武士道について」**

7月25日～26日 鹿児島アリーナ

川内中央中学校 野村 宗一郎

旧千円札に描かれている新渡戸稲造という人物がいる。新渡戸稲造が書いた本が「武士道」である。国連の事務次長であった彼がベルギーの法学者と話をしているときに道徳教育の話になった。そこで日本に宗教教育がないことを驚かれ、日本は何を基本として道徳教育を行っているのかと問われたが、言葉を返すことができなかった。それをきっかけに日本の道徳教育について研究を重ね、「武士道」の精神から為されていることに辿り着いたのである。

柔道は「武士道」の精神を受け継いだ武道である。私たちが柔道を学んでいるということは、日本道徳の基礎を専門的に学んでいるといっても過言ではない。我々が日本人としての在り方の手本であるという意識を持たなければならない。鹿児島県の柔道には薩摩柔道ルネッサンス宣言という素晴らしい目標がある。「礼儀を正しくします」「立派な人間になります」「弱い者をいじめません」「ウソをつきません」「自分に負けません」ただ強くなるだけでなく、これらの精神を高め、稽古に励むことが人間としての成長に繋がり、社会に必要とされる人材になることができる。生徒たちには柔道を学んでいることに誇りを持ち、これからの鹿児島県、日本を引っ張っていく存在になることを期待したい。

県スポーツ少年団競技別交歓大会

8月7日(日) 総合体育センター武道館

1位 忠氣道場

2位 三笠柔道スポーツ少年団

3位 かわなべ柔道スポーツ少年団

3位 修道館

県スポーツ少年団競技別交歓大会**柔道MINDスピーチ**

8月7日 総合体育センター武道館

末吉柔道スポーツ少年団監督 鮫島芳美

今回、「柔道マインドのスピーチを」と依頼されましたが、「柔道マインド」ともなれば、私が一番ふさわしくないのに、なぜ引き受けてしまったのか?と、心の底から後悔をしました。しかし、私を「いわゆる反面教師」、つまり「悪い見本」としてもらって、恥をしたのでスピーチさせていただく事で、皆様にはお許しをいただきたいと思えます。

さて、柔道マインドについては、これまで多くの先生や選手の皆さんが、スピーチをされたり、パンフレットなどにも書かれていますので、詳しくは説明しませんが、私にとっては柔道マインドの「礼節」「自立」「高潔」「品格」、この4つの言葉を初めて知った時には、正直「これは困った。今までの自分を考えると、とても似合わない言葉だな～、どうしたものか…」と置いていたところ、本県出身の、三井住友海上の稲森奈見選手が、2014年のグランドスラム東京で初優勝し、その時に「まいんど大賞」の第1号を受賞しました。その稲森選手の、まいんど大賞受賞について、当時の全柔連の機関誌である「まいんど」の2015年・1月号にこう書かれています。「たくさんの日本選手が活躍した中で、日本柔道の美しさを感じたのが稲森奈見選手です。彼女はグランドスラムで、タイトルに挑戦するのは初めてでも、心の動揺は微塵も感じられませんでした。スタンバイでの立ち姿、畳に上がる時の「礼」、試合場内に入る「礼」、流れるような動作に無駄なものは何ひとつなく、その「凜」とした姿はとても美しく、「女王の風格」さえ感じられ、演出で派手になっている会場の中で、ひときわ美しさが増したように思います。試合も1本勝ちで決め、全身で喜びを表現したかっさに違いありません。それでも表情を変えることなく、勝ち名乗りをうけ、試合場を降りる際、観客席の大歓声に、笑顔で手を振って応えながらも、最後にきちっと「礼」をしてその場をしめました。改めて日本柔道の美しさを体現してくれた彼女に感謝です。」と、このように絶賛されました。

これを読んだときに、私は「ためらっている場合じゃない、真剣に取り組みましょう。」と、稲森選手から覚悟を迫られたような思いがこみあげてきました。

しかし、つい最近も私はある出来事があり、未だに柔道マインドの精神からほど遠いと、心から反省する毎日です。それでも、あきらめずに少しでも稲森選手のように実践できるようにと、努力していきます。

皆さん、マインドとは難しい言葉で理解しにくいですが、次の二つの事を頑張ってみてください。まず一つ目、素直な心で、全ての事に感謝する心をもって下さい。最も感謝するのは皆の為に一生懸命尽くしてくださるお父さん・お母さん、ご家族。そしてみんなのご先祖様。次に、自分の周りの方々。柔道に関して言えば、同じ道場の仲間・指導者の先生はもちろんの事、他のチームのライバルに

も感謝しましょう。なぜなら、普段の稽古がきつくて、休みたくなかったときに「ライバルには負けれない」と思えば、またきつい稽古を頑張れるからです。リオオリンピックの柔道が始まりましたが、過去のオリンピックのメダリストたちのインタビューなどでも

「周りの応援やライバルの存在があったので頑張れました」との言葉を聞いたりしたことがあります。つまり、自分と戦ってくれて、自分に目標を持たせてくれて、自分に努力させてくれて、その結果、自分を高めてくれる、そんなライバルにも心から感謝する。これも大切な事だと思います。また普段の生活でも、みんなが素直な心で、感謝する心を持っていれば、例えば、いじめをする人を見たら「いじめはしたらいけない事だと、このいじめてる人は私達に教えてくれてるんだ。感謝しよう。だから私は勇気をもってこのいじめてる人に、それは良くない事だよと教えてあげよう」とすると、いじめていた人が、素直な心で、感謝する心を持って人ならば、「私は良くないことをしていた。教えてくれてありがとう。君に感謝するよ。」となってくれると思っています。そしてもう一つ努力する事は、この鹿児島には、先ほどみんなで宣言した「薩摩柔道ルネッサンス宣言」があります。この宣言を少しでも実行できるように頑張る事です。素直な心で感謝する心を持って、「薩摩柔道ルネッサンス宣言」を実行する、そうすれば「礼節」「自立」「高潔」「品格」のMIND精神が自然と宿ると思っています。私もみんなと、同じように頑張ります。

長くなりましたが、各チームの指導者の先生方、少しでも多くの子供たちが、柔道に出会えて良かった、そして保護者をはじめ多くの方々が、この子に柔道をさせて良かった、と思っただけのように、これからも頑張っ

九州中学校柔道大会

8月5日(金)～7日(日)

宮崎県 KIRISHIMA ツワブキ武道館

◇男子

- 60kg級 3位 南 龍太郎 (西紫原)
- 66kg級 3位 塩屋翔二郎 (吉野)
- 73kg級 2位 濱田 聖良 (隼人)
- 90kg級 3位 橋口 佳尚 (吉野)

◇女子

- 48kg級 2位 中馬 梨歩 (吉野)
- 70kg級 3位 宮田 礼菜 (末吉)

第47回全国中学校柔道大会

8月17日(水)～20日(土)

新潟県リージョンプラス上越インドアスタジアム

◇女子(48kg級)

優勝 中馬 梨歩 (吉野中学校)



【南日本新聞 9/8掲載記事】

第13回全国小学生学年別柔道大会

8月28日(日)三重県営サンアリーナ

【男子の部】

- ◇6年50kg級 宮永凌駕 (忠氣道場) 1回戦敗退
- ◇6年50kg超級 山神 純汰 (青雲) 2回戦敗退
- ◇5年45kg級 作本 迅 (坊津学園) 3回戦敗退
- ◇5年45kg超級 柏木 恋 (出水) 2回戦敗退

【女子の部】

- ◇6年45kg級 高目 汐莉 (光武館) 2回戦敗退
- ◇6年45kg超級 平野 智愛 (青雲) 2回戦敗退
- ◇5年40kg級 東郷 紅葉 (修道館) 1回戦敗退
- ◇5年40kg超級 平 愛菜美 (南種子) 1回戦敗退

【編集後記】

全中で優勝した中馬さんは、県ジュニアの柔道MINDスピーチで、「私の今年の目標は全国大会優勝です。全国の頂点に立つために、日々の練習に打ち込んでいきます。」とスピーチしていました。並々ならぬ努力の結果の優勝。おめでとうございます。

さて、先般行われたリオオリンピック柔道競技では、日本は、金3個、銀1個、銅8個、さらに男子は全階級でメダルを獲得するなど、すばらしい成績を上げました。これを機にまた柔道人気が復活して、競技人口増につながり、次の東京オリンピックと同じ年に行われる鹿児島国体でも本県の柔道が躍進することを期待します。

(文責：田島)